

大館の歴史散歩

峠・坂
里の道 ⑧

扇田道

赤館を経て餌釣、山館そして舟で米代川を川渡りという約一里の道筋。今も土地の古老たちに「フルケド(古街道)」と呼ばれる道、扇田街道がある。
「達子森を目的(メアテ)に扇田に至れ、わたし場あり。」寛政九年(一七七七)閏七月二十日、秋田の文化人、人見蕪雨が大館から十二所への旅日記の記述である。



その道端には、信仰と旅人の道案内のため建てられたいろいろな碑がある。赤館と桜町の辻、相染町の坂の中腹、柄沢へ向かう三差路、餌釣山王台日吉神社境内、山館八幡神社下。そういう所にひっそりとたたずんでいて、何か道行く人が声をかけてくれるのを待っているような

また菅江真澄も、享保三年(一七一八)六月二十三日に花岡からこの道をたどり、扇田へ向かったことが紀行文「にえのしがらみ」に見える。当時の扇田は米代川の舟運で栄え、そして大館も月六齋の市でたいへんなにぎわいを見せていた。扇田道は大館から鹿角への主要道として往来が盛んであったのである。



▲山王台日吉神社付近の「扇田道」

明治二十三年、鍛冶町から南へいわゆる南新道の開通。同二十四年、川渡しの少し下流に架けられた扇田橋の完成とともに、扇田道は主要道としての役割りを新しい道に譲ることになるのである。
道は未知に通ずるといふ。今の慌しい世にこそ、古い道を尋ね、先人の旅に思いを馳せるのもまた、良いのではないだろうか。これまで見過したり、見落したりしていた未知の世界が発見できるかもしれない。
市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

「イーストウィックの魔女たち」
J・アップダイク著
(新潮社)



海辺の町イーストウィックの三人の魔女(といっても、30代の知的で美しい女たち)は、いずれも離婚して自由な生活をおくっている。彼女たちが巻き起こす、刺激的な大人のための現代の寓話。

一般書

- ◇いまの世の中どうなってるの(本田靖春)
- ◇懐かしい年への手紙(大江健三郎)
- ◇夕あり朝あり(三浦綾子)
- ◇大人の時間(五木寛之)
- ◇抵抗の器(もりたなるお)
- ◇裏切りの第二楽章(由良三郎)
- ◇伊達政宗の遣使使節(松田毅一) ほか

児童書

- ◇子供部屋のアリス(ルイス・キャロル)
- ◇わらいじょうごのお姫さま(ロダリー)
- ◇ポエムくんのとうめい(横田順弥)
- ◇もりのほんやさん(舟崎靖子) ほか

◆11月のテーマ関連図書コーナーは『映画』です。

◆親子読み聞かせ会は
毎週金曜日 午後2時30分

◆中央図書館の休館日は
11月23、26日、12月20、24日



講師の横顔

東北大学教養部
教授 岡本友孝氏
昭和八年東京生まれ。東大経済学部卒業後、同大学院博士課程終了。四十二年福島大経済学部助教授、五十年東北大学教養部経済学科助教授を経て、五十九年同教授に就任。国際比較地域研究会会長、東北経済連合会「新東北開発計画基本構想」策定委員長などとして広く活躍中です。

▽総括全体会議(4時10分～5時30分)
アドバイザー 岡本友孝氏

シンポジウム

まちづくり21世紀計画

—10万人都市おおだてをめざして—

とき・11月28日(土) 午後1時
ところ・中央公民館

▽基調講演(1時5分～2時30分)

「第四次全国総合開発計画からみた新しい都市づくり戦略」
講師・東北大学教養部
教授 岡本友孝氏

▽分科会(2時40分～4時)

●第1分科会

テーマ「職場産業はいかにして生きのこるか」
コーディネーター
千葉工業大学講師
現代地域研究所所長 安東誠一氏

●第2分科会

テーマ「大館の観光拠点づくり」
ふるさとセンターは観光拠点となりえるか
コーディネーター
秋田県観光連盟会長
秋田中央交通社長 渡邊靖彦氏

●第3分科会

テーマ「大学誘致をとりまく諸問題」
コーディネーター
比内町教育委員会
教育長 山脇平太郎氏

まちづくり21世紀計画シンポジウムには、どなたでも参加し、発言することができます。より良い大館をつくるために、多数の皆さんのご来場をお願いします。